

一般質問 議:議員/理:理事者

● 広報誌や地域情報誌の家庭配布について

その他の質問

- ・新中学校の図書館と市立図書館を電子図書館にする事業について



下牧 一郎 議員



議 雪国である本市では、超高齢化と過疎化が急速に進行している。その中で、広報誌や地域情報誌等を住民が手渡しで配布することは、冬の転倒事故の危険を伴う「命がけの重労働」となっており、すでに限界を迎えている。現在のように住民の責任感に依存した配布体制は、自治組織の維持自体を困難にしている。そこで、①地区配布か業者委託かを選択できる制度、②業者等への全戸委託、③学生アルバイトの活用といった具体的な方策を提案する。これらは単なるコスト増ではなく、高齢者の安全確保と持続可能な自治組織を維持するために必要な投資であると考えているが、市の見解を伺う。

理 現在、月2回「広報かつやま」等の行政文書を、行政協力員を通じて各家庭へ配布いただいている。文書の配布量が多いという意見を以前から受け、市では行政文書の削減を継続的に取り組んできた。その結果、令和7年度は5年度同時期と比較して配布量を約34%削減しており、令和8年中には配布回数を月1回に削減する予定である。行政文書を郵送した場合の経費は、1回あたり概ね100万円、年間約1,200万円が見込まれる。提案はそれぞれ有効性があるものと考えているが、市としては、今後も行政文書のさらなる精査を進めると共に、デジタル化を進めていく。しかし、スマートフォン操作が苦手などの理由からデジタル情報の取得が困難な方への対応も必要である。まちづくり会館等でのスマートフォン操作を学べる機会を積極的に提供するなど、普及促進を図っていきたい。

一般質問 議:議員/理:理事者

- 生涯学習センター「友楽喜」事務所機能移転の進め方と、存続について
- 高齢者移送サービス事業の拡充について

その他の質問

- ・勝山市における宿泊税導入について
- ・地域課題の解決に向けた地域おこし協力隊の戦略的活用について
- ・まつりがまちを育て、発展させる！勝山左義長まつりに市民全員がかかわり、次世代につなぐ取り組みについて



浦上 雄次 議員



議 議会の中でも議論できていない中、突然4月に事務所移転や市民会館への移動など方向が示された。現在使用されている団体にとっては急な話であり、計画の見直しを要望するが、市の見解を伺う。

理 「友楽喜」の事務所移転は平成28年策定の公共施設等総合管理計画に基づく貸館機能の集約化を進めるものである。当時は受け入れ先の課題があり計画を延期したが、その後市民会館からの建設課等移転や中学校統廃合に伴う体育館施設の状況変化、中心市街地のにぎわい創出、計画の進展があり、課題が解決されてきた。これらを踏まえ、市民総合大学の利用拡大を目的に令和7年度当初より検討を重ね、利用者の一部には市民会館への利用移行を促していた。

説明の時期が性急であったとの指摘は真摯に受け止める。利用者の理解を得ながら令和8年4月からの会場移動を実現し、令和9年度以降の施設廃止に向けた調整を進めていきたい。

議 市内には介護タクシーを使い、高齢者移送サービス事業を利用している方々がいるが、事業の拡充は高齢化社会が進む勝山市にとって今後確実に必要であり、介護しているご家族の負担を少しでも軽減してほしいと思う。市の見解を伺う。

理 高齢者移送サービス事業は、常時車椅子等を使用し、一般交通機関での外出が困難な在宅高齢者が対象で、通院等に介護タクシーを利用する場合の初乗運賃を補助するもの。本事業の予算拡充については、まず現在の利用状況や事業への意見を聞き、課題を把握していく。その課題をもとに、介護をされているご家族の負担軽減となるよう、事業内容の見直しや予算の拡充を検討していく。